

宝くじは、みんなの暮らしに役立っています。



おおきなえほん
すご〜い!



みんなと
いっしょに
のれた〜!



いっぱい
あそぼ〜!



さくらって
きれ〜い!



宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、災害に強い街づくりまで、みんなの暮らしに役立っています。

一般財団法人日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人
日本宝くじ協会
<http://jla-takarakuji.or.jp/>

クラシックって楽しいな!

(オペラにまつわるエトセトラ)

オペラは、音楽、演劇、絵画などの要素がミックスされた総合芸術なんじゃ。そういった背景を知って観ると、もっとクラシック音楽を楽しむことができるんじゃあぁ〜♪



 公益社団法人国際音楽交流協会

〒602-0894 京都市上京区上御霊仲町 457-10
TEL: 075-414-1311 URL: <http://www.imea.or.jp>

このパンフレットは、**宝くじ**の社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



オペラを彩る歌手たち

歌手の配役を決定する際、それぞれの声の質や音域を考慮して役の性格を演出する。

声域には低い方から男性のバス、バリトン、テノール、女性のアルト（コントラルト）、メゾソプラノ、ソプラノがある。

一般的に高い声域は若者や主役級、低い声は年配の役や宗教家などの人格者、あるいは魔女や魔性の女等にあてられる。

声の質（重さ、太さ）にもいくつかの種類があり、役柄の個性を表す重要な要素となっていて、同じソプラノといえど向かない役や歌にくい曲があるとされている。

ただし、あくまでも便宜上の分類で、はっきりした境界があるわけではない。従って、分類の方法も人によって様々である。

◎オペラ上演に関わる人々

指揮者、演出家、出演者、オーケストラ、合唱団、プロンプター、ライブラリアン、舞台裏を支えるハード部門のスタッフ（照明、音響、衣装など）全て合わせると数百人とと言われる。

[プロンプター]

歌手が歌詞を忘れた時に囁いて教えたり、歌い出しを間違えたときやオーケストラと歌がずれたときなどにそれを知らせる。上演中は舞台中央の客席側に待機していることが多い。歌手の精神安定剤的存在であると言える。また、作品に応じて、イタリア語、ドイツ語等様々な言語に対応できる能力が要求される。

…ソプラノ…

レッジュエーロ

若々しく明るくて軽やかで無邪気な感じ。「ランメルモールのルチア」のルチア、「夢遊病の女」のアミーナ等。なお、装飾的で細かい音をコロコロと動かすテクニックを持つ声をコロラトゥーラソプラノと呼ばれ、最も高い音域を必要とされる。「魔笛」の夜の女王など



リリコ・レッジュエーロ

軽やかで愛らしい声、女中役等。「フィガロの結婚」のスザンナ、「愛の妙薬」のアディーナなど



リリコ

表現豊かな、叙情性のある、柔らかな声質。「椿姫」のヴィオレッタ、「ラ・ボエーム」のミミ、「フィガロの結婚」の伯爵夫人など



リリコ・スピント

叙情性のある深い声で気高い、たくましい女。「アイーダ」のアイーダ、「トスカ」のトスカ、「蝶々夫人」の蝶々さんなど



ドラマティコ

劇的な表現力に富む声、気の強い王女等。「トゥーランドット」のトゥーランドット、「トリスタンとイゾルデ」のイゾルデ、「ニーベルングの指環」のブリュンヒルデなど



…メゾソプラノ…

一般的にはソプラノのように細かく分類されない。逆に言えば、どんな役でもこなさなければいけない。「カルメン」のカルメン、「仮面舞踏会」のウルリカなど



…アルト…

オペラの分類ではコントラルトとも言われる。カストラート役が多いバロック・オペラでは多くの役がある。元々は男性の高い声域を指していた。「ズボン役」といわれる、男装した女性が男役を演じる事もある。「ニーベルングの指環」のエルダ、「カヴァレリア・ルスティカーナ」のルチアなど



…テノール…

レッジュエーロ

若く、軽やかな声質、コロラトゥーラの技巧を持つ。

「セビリアの理髪師」のアルマヴィーヴァ伯爵など



リリコ

叙情的、高らかで輝かしくさわやかな声質。「ラ・ボエーム」のロドルフォ、「椿姫」のアルフレード、「リゴレット」のマントヴァ公爵など



リリコ・スピント

表情豊かで叙情性のある強靱な声。時にリーダーシップを感じさせるもの。「カルメン」のホセ、「アイーダ」のラダメス、「トゥーランドット」のカラフなど



ドラマティコ

重厚でたくましく、力強い。「オテロ」のオテロ、「道化師」のカニオなど



…バリトン…

リリコ

叙情的表現、美しい旋律を歌うのに適したもの。「フィガロの結婚」のアルマヴィーヴァ伯爵、「イル・トロヴァトーレ」のルナ伯爵など



ドラマティコ

劇的表現に適した重々しく太くて強靱な声。「オテロ」のイヤゴ、「トスカ」のスカルピアなど



ブッフオ

オペラ・ブッフオにおいて早口で軽妙に歌う「魔笛」のパパゲーノ、「セビリアの理髪師」のフィガロ、「ドン・ジョバンニ」のレポレツォなど



…バス…

深い陰影を表現する声で、威厳や気品のある役。「後宮からの逃走」のオスミン、「魔笛」のザラストロ、「ファルスタッフ」のファルスタッフなど



ヘルデン・テノール

ワーグナー歌手、ワーグナー歌いとも言われる。ワーグナーの楽劇を歌うにふさわしい明るく英雄的で声量豊かな重めの声。「ニーベルングの指環」のジークフリート、「トリスタンとイゾルデ」のトリスタン、「ローエングリン」のローエングリンなど



16 世紀末のイタリア、フィレンツェで生まれ、貴族の結婚式や式典の出し物として大人気となったのがオペラの始まりとされる。日本は戦国時代で、ちょうど関ヶ原の戦いで徳川軍が勝利したぐらいの時期。そしてペーリ作曲「エウリディーチェ」が結婚式のお祝いの席で上演されたのをきっかけに、そこに出席していたモンテヴェルディが1607年にマントバ宮廷で最初のオペラ書法とされる「オルフェオ」を発表した。やがてベネツィアのサン・カッシヤノ劇場で、初めて市民向けの興行が行われ、これ以降100年ほどの間にヨーロッパ中に広まった。当時、フランスを除いては全てイタリア語で上演されていた。

こ のようなイタリア・オペラはギリシア神話や古代中世の王や英雄たちの活躍を題材にした作品が多い。王や英雄が様々な困難を乗り越えて、最後は神の恩寵や王の偉大さをたたえて幕が下りるといふもので、オペラ・セリア＝正歌劇と呼ばれる。音楽的にはイタリアならではの、旋律や歌唱の美しさが重視され、ストーリーよりも歌手の技巧に重きがおかれ、華やかさが追及された。主役は、ほぼカストラートが独占していた。代表的なものにモーツァルトの「皇帝ティートの慈悲」「イドメネオ」などがある。

そ の後18世紀前半にはナポリを中心にオペラ・ブッフアが広まる。庶民たちの間からオペラ・セリアに比べてもっと気楽で楽しいオペラを、と言う声が高まり、喜劇的な内容をもつオペラ・ブッフアが誕生した。元々、インテルメッツォと呼ばれ、まじめで長いオペラ・セリアの、いわば気分転換のための余興(手品やパントマイム)があった。これに代わって軽演劇のようなオペラを上演したところ大衆の間で大ヒットし、オペラ・ブッフアに発展していった。当時最も有名であったのがベルゴレージのオペラ・セリア「誇り高き囚人」の幕間で上演された「奥様女中」。チマローザの「秘密の結婚」、ロッシーニの「セビリアの理髪師」、モーツァルトの「フィガロの結婚」は有名なオペラ・ブッフア。

ま た、イタリアのオペラ・ブッフアに対してフランスではオペラ・コミックが生まれた。フランスで元々あった民衆的な歌芝居に喜劇の要素を盛り込んだもので、歌や管弦楽伴奏がつき、その他セリフも入る。その後、軽い喜劇だけでなく、ロマンティックな内容のものや悲劇的な内容を持ったものも出てくるようになった。また、イギリスではバラッド・オペラ、ドイツではジングシュピール(モーツァルトの「魔笛」「後宮からの逃走」が代表作)などと呼ばれ、より庶民的な作品が多く作られた。

18 世紀後半のフランス革命で身分制が崩壊してからは、本来宮廷のものだった劇場が裕福な市民階級のものとなり、更なる大衆化が進んだため、自国語のオペラ作品が求められるようになった。ドイツのヴェーバーやワーグナー、チェコのスメタナ、ロシアのムソルグスキーやチャイコフスキー、ボロディンの作品などがそうである。

我 が国初のオペラ上演は、江戸時代の長崎出島において、オランダ人によるフランス語オペラ・コミックであったという記録がある。その後、鎖国が解けた明治時代の初め頃から、イタリアやロシアの歌劇団が来日して公演するようになった。1875年アジアツアーで日本を訪れたマリアパルミエリらがオペラ歌唱コンサートを行い、1894年にはオーストリア＝ハンガリー帝国大使館職員により「ファウスト」第一幕が上演された。

そ の後、1911年に創設された帝国劇場に歌劇部が併設され、ここでオペラの小規模な上演が継続的に行われるようになった。1932年には、ヨーロッパで活躍していたテノール歌手の藤原義江が帰国し、その後藤原歌劇団の前身となる「東京オペラ・カムパニー」を設立、「ラ・ボエーム」「リゴレット」「トスカ」など本格的



世界

19 世紀になってイタリアと並ぶオペラ大国になったのが、ドイツだった。18世紀後半以降、ドイツやオーストリアでハイドン、モーツァルト、ベートーヴェン等の作曲家たちによって器楽の分野が開拓された。ドイツオペラの大きな特徴は交響曲にも通じる様な表現力をもつオーケストラにある。ヴェーバーは「魔弾の射手」で、ドイツならではの森などの自然描写や民話を題材として用い、ドイツ語によるドイツ国民オペラの

先駆者として大成功をおさめた。また、ワーグナーは9才の時にこのオペラを観て作曲家になる意志を固めたという逸話があるが、彼はドイツオペラ界に多大な影響をもたらし、後にドイツオペラの頂点に君臨することとなる。また、彼は台本を全て自分で書いたが、伝統的な歌手中心の作品を否定し、オペラを劇全体の進行が切れ目なく、音楽だけでなくドラマや舞台芸術も含めて一体となったもの＝総合芸術ととらえ、それを自ら「楽劇」と呼んだ。ドイツ・ロマン派オペラ史上最高峰と言われるヴァーグナーのオペラは、多くの熱烈な崇拜者を生んだが、一方でそれを否定する者も多く、ヨーロッパ中で大きな議論を呼んだ。



リヒャルト・ワーグナー

と ころで、イタリア・オペラ史上最高峰と言われる、1842年「ナブッコ」で爆発的な人気を得た後、「リゴレット」「椿姫」「仮面舞踏会」「ドン・カルロ」等の作品を世に出したヴェルディは、ヴァーグナーと同じ年に生まれた。二人はそれぞれ輝かしく活躍したが、生涯会うチャンスには恵まれなかった。しかし、お互いに強く意識し、影響しあっていたと言われている。



ジュゼッペ・ヴェルディ

オ ペラはその後も発展を続け、19世紀以降にも多くの名作が誕生した。プッチーニ「マノン・レスコー」「ラ・ボエーム」「トスカ」「蝶々夫人」「トゥーランドット」、ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」、ショスタコーヴィチ「ムツェンスク郡のマクベス夫人」、バルトーク「青ひげ公の城」、ヒンデミット「画家マティス」、ストラヴィンスキー「エディプス王」、プロコフィエフ「三つのオレンジへの恋」などが有名である。

公演を行った。1940年には山田耕筰の「黒船」が初演された。これは日本人作曲家初のグランドオペラである。

戦 後になって1952年、東京音楽学校の出身者たちによって二期会が設立され、同年に團伊玖磨の「夕鶴」が初演、以後藤原歌劇団とともに日本オペラの中心的存在として、本格的なオペラ上演の活動を展開していくこととなった。

70 年代後半からは、海外のオペラハウスの引越越し公演(歌手、合唱団、バレエ団舞台セットすべて持ち込んでの上演)が盛んになった。オペラ上演の機会が増え、これにあわせて、観客の層も厚くなっていった。80年代半ば以降は、より内容を理解しやすいように、それまでしばしば用いられたイヤホンガイドに代わって字幕が使用される事が多かった。



日本

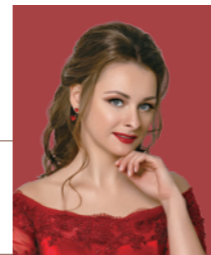
●カストラート

子供のように広い声域と、大人の感受性や表現力を合わせもつ男性歌手のこと。この広い声域は、なんと少年期の去勢により変声期を妨げるという人為的な手法により作られていた。当時、女性が教会で歌うことが禁じられていたという時代背景があるにせよ、こういったことは当然公式には禁止されていた。にもかかわらず数多くのカストラートが出現し、ステージの主役となっていた。一流のカストラートの出演料はオペラ作曲家の作曲料の十数倍と高額であったため、一攫千金を夢見た貧困層の親たちが多くの子供を手術台に送ったと言われている。イタリアでは毎年4000人の男の子が手術台に送られたという話もある。作曲家はカストラートのための作品を作り、劇場はカストラートの物珍しさで集客するという風潮があったほどである。映画「カストラート」は実在したカストラート歌手、ファリネッリの生涯を描いた作品である。イタリアでは爆発的な支持を受けたカストラートであったが、フランスでは、この不自然な声や超絶技巧は受け容れられなかった。



ラフマニノフ 作品に恋して

ナターリヤ・スクリャーヒナ
オペラ歌手(ソプラノ)
元グネーシン劇場オペラスタジオソリスト



私は、小さい時からセルゲイ・ラフマニノフの創造性に魅力を感じていました。モスクワ音楽院アカデミック音楽カレッジで学んでいる時には、まさか数年後にラフマニノフ作曲、「アレコ」のゼムフィーラを演じることになるとは思っていませんでした。この作品の原作はプーシキンの「ジプシー」です。ラフマニノフはこの作品をなんと19歳の時にわずか17日間で作曲しました。さて、ゼムフィーラを演じるに際してまず歌詞に目を通したのですが、すぐに変なことに気づきました。ゼムフィーラには、弱々しく愛情深い女性と、意志の強い攻撃的な女性という全く違う顔がありました。私が悩んでいると、共演者や監督が助けてくれました。オペラ公演の際、共演者に恵まれていることはとても重要です。ステージでは実生活を切り離し、演じる役の人生を感じなければなりません。ゼムフィーラを演じる際に最も大変だったのは、何種類ものダンスをマスターしなければいけないことでした。激しいダンスの後、すぐさま呼吸を整えて歌わなければなりません。このために、とても長い時間をかけてトレーニングをしました。毎日ダンスの後に歌うことを繰り返しました。日々の鍛錬と、役を演じ切りたいという猛烈な欲望が、ゼムフィーラを演じることを可能とします。当時のことを思い起していますが、機会があればまたやりきってみたいと思います。ゼムフィーラは色々な感情の持ち主で、見ていて飽きません。また、ラフマニノフの作品は、観た人全てを魅了します。ゼムフィーラの役は私にとって特別です。ヒロインの様々な感情を表現する機会を、また、歌や踊りというマルチな役割を与えてくれた偉大なラフマニノフの作品に敬意を表します。

著名作品初演年表

- 1600 ペーリ「エウリディーチェ」
- 1607 モンテヴェルディ「オルフェオ」
- 1733 ベルゴレージ「誇り高き囚人」
- 1781 モーツァルト「イドメネオ」ミュンヘン
- 1786 モーツァルト「フィガロの結婚」ウィーン
- 1791 モーツァルト「魔笛」ウィーン
- モーツァルト「皇帝ティートの慈悲」プラハ
- 1792 チマローザ「秘密の結婚」ウィーン
- 1816 ロッシェニ「セビリアの理髪師」ローマ
- 1821 ヴェーバー「魔弾の射手」ベルリン
- 1831 マイヤベーア「悪魔のロベール」パリ
- 1832 ドニゼッティ「愛の妙薬」ミラノ
- 1836 マイヤベーア「ユグノー教徒」パリ
- 1842 ヴェルディ「ナブッコ」ミラノ
- 1843 ワーグナー「さまよえるオランダ人」ドレスデン
- 1849 マイヤベーア「預言者」パリ
- 1850 ワーグナー「ローエングリン」ワイマール
- 1851 ヴェルディ「リゴレット」ヴェネチア
- 1853 ヴェルディ「椿姫」ヴェネチア
- 1859 ヴェルディ「仮面舞踏会」ローマ
- 1865 ワーグナー「トリスタンとイゾルデ」ミュンヘン
- 1866 スメタナ「売られた花嫁」プラハ
- 1867 ヴェルディ「ドン・カルロ」パリ
- 1871 ヴェルディ「アイダ」カイロ
- 1874 ムソルグスキー「ボリス・ゴドノフ」サンクトペテルブルク
- 1875 ビゼー「カルメン」パリ
- 1876 ヴァーグナー「ニーベルングの指環」バイロイト
- 1879 チャイコフスキー「エフゲニー・オネーギン」モスクワ
- 1890 チャイコフスキー「スペードの女王」サンクトペテルブルク
- 1890 ボロディン「イーゴリ公」サンクトペテルブルク
- 1893 プッチーニ「マノン・レスコー」トリノ
- ヴェルディ「ファルスタッフ」ミラノ
- 1896 プッチーニ「ラ・ボエーム」トリノ
- 1900 プッチーニ「トスカ」ローマ
- 1902 ドビュッシー「ペレアスとメリザンド」パリ
- 1904 プッチーニ「蝶々夫人」ミラノ
- 1911 リヒャルト・シュトラウス「ばらの騎士」ドレスデン
- 1918 バルトーク「青ひげ公の城」ブダペスト
- 1921 プロコフィエフ「三つのオレンジへの恋」シカゴ
- 1926 プッチーニ「トゥーランドット」ミラノ
- 1928 ストラヴィンスキー「エディプス王」ウィーン
- 1934 ショスタコーヴィチ「ムツェンスク郡のマクベス夫人」サンクトペテルブルク
- 1938 ヒンデミット「画家マティス」チューリッヒ
- 1940 山田耕筰「黒船」(夜明け) 東京(序景を除く1~3幕のみ)
- 1952 團伊玖磨「夕鶴」大阪



1600年 関ヶ原の戦い



1789年 フランス革命(身分制・封建的体制の崩壊)



1854年 日米和親条約(鎖国終焉)

世界の主要歌劇場



【パリ】オペラ座(ガルニエ宮)

オペラよりもむしろバレエで有名。革命記念塔があるバステューユに30年前に完成したオペラ・バステューユ(新オペラ座)で主にオペラ公演が催される

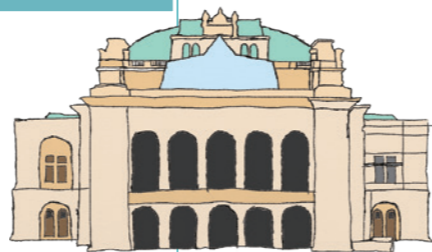


【ミラノ】スカラ座

イタリアオペラの重要なレパートリーが初演されてきたまさにイタリアオペラの最高峰。プッチーニの蝶々夫人やトゥーランドットも初演。マリア・カラスはその生涯の中で最も輝かしい時をスカラ座に捧げている。

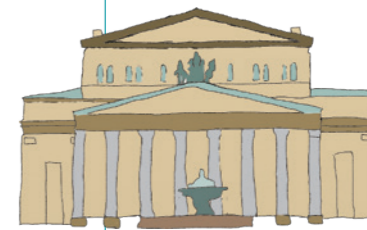
【ウィーン】ウィーン国立歌劇場

1863年完成。こけら落としではモーツァルトのドン・ジョヴァンニ。過去にはグスタフ・マーラーやリヒャルト・シュトラウス、そして小澤征爾などが音楽監督を務めた。



【モスクワ】ポリショイ劇場

サンクトペテルブルグにあるマリンスキー劇場と並び、ロシアを代表する劇場である。管弦楽団とバレエ団を有しているが、どちらかと言うとバレエで有名。ポリショイとは、ロシア語で大きいという意味。従って劇場名を直訳すると「大劇場」という意味になる。いわゆる大劇場はロシア国内にいくつも存在するが、一般的にポリショイ劇場と言えばこの劇場のことを指す。ちなみに、わが国で有名なポリショイサーカスはこの劇場とは関係ない。過去には、チャイコフスキーやラフマニノフもこの劇場で公演を行った。



【ニューヨーク】メトロポリタン歌劇場

ロビーの壁に描かれたシャガールの壁画が、正面のガラス窓の向こうに浮かび上がる様子は壮観。しかし、ヨーロッパの伝統的な歌劇場に比べるとロビーなどは地味な印象を受ける。歌手の顔ぶれは常に超一流を揃えていることで有名。舞台装置も高度に機械化されており、それによって毎晩違う演目を行うことができる。



私が初めて演じた役

スタニスラフ・モストヴォイ
オペラ歌手(テノール)
ポリショイ劇場ソリスト



私が初めて演じた役はチェイコフスキー作曲、「エフゲニー・オネーギン」のヴラジーミル・レンスキーでした。この作品は、アレクサンドル・プーシキンの小説が原作で、最も有名なロシアオペラの一つです。私は学生時代に、まだ18歳にもなっていなかったと思いますが、このオペラの一部を歌いました。レンスキーの役を全て演じたのはずっと後になってからです。オペラの役を演じる場合、様々な種類の難しさがあります。原作となっている文学作品を良く理解すること、完全な歌唱技術、そして自分の演ずる役に感情を移入し、成りきることであります。しかし、今日に至るまで私が最も難しいと感じているのは、互いが干渉しすぎないように技術と感情のバランスを最良に保つことです。例えば、学校の教室で、リラックスした静かな環境で完璧に歌うことは難しいことではありません。しかし、ひとたび衣装を身にまどってステージに立つと、感情が私を支配し、身体中のアドレナリンが血中に流れ込み、声と身体をコントロールするためにはもの凄いわくわくが必要になります。時間の経過とともに身体が正常にコントロールされ始め、そして私の中にレンスキーが現れます。

この系統的な流れを初めて体験した時、私はこれまでに感じたことのない喜びを得ました。しかし同時に、ここにはルールというものは無く、全ては予測不能で、役の最終形というものは無いということに認識しました。まるで手練れの職人の手によってカットされた宝石が全て美しいように。私の演じるレンスキーは、その時々で、私が彼のことをどう感じているかによって変わります。オペラ歌手として活動を始めてから10年が経過しました。その間に、10程の役を演じましたが、いまだにそれぞれの役に対する私のイメージを明らかにするためのヒントを模索し続けています。この期間は私にとって永遠に特別なものとなるでしょう。この10年を通じて得た私の人生における最大の発見、それは、オペラ歌手になって私自身が幸せであるということです。

【バイロイト】バイロイト祝祭劇場

バイロイトはドイツのバイエルン州北部にある小都市。作曲家であり演出家でもあったワーグナーが、自分の理想を実現するために構想し自ら設計したもので、バイエルン国王支援により完成した。オペラハウスが社交場となるのを嫌った彼の方針で、簡素な内部や狭いロビーなど独特の特徴を持つ。聴衆がドラマに集中できるように、座席を質素な木製にしたり、オーケストラピットを舞台の下に潜り込ませた造りして、ワーグナー作品に多い大音量オーケストラであっても、歌手のメロディーやその歌詞がはっきりと聞こえるための工夫がなされている。

ヨーロッパでは夏にリゾート地等を中心に音楽祭が開かれるが、ここで開かれるバイロイト音楽祭は特にチケットの入手が難しいと言われる。ワーグナーの子孫が代々運営している。



【東京】新国立劇場

1997年にオペラ関係者やファンの永年の夢であった日本で最初のオペラ専用の歌劇場、新国立劇場が誕生した。

オープニングには古事記・日本書紀に登場する英雄、ヤマトタケルノミコトを題材にした團伊玖磨作曲「建・TAKERU」等が上演された。ヨーロッパの主要都市が歌劇場を持ち、それぞれに専属オーケストラ等が存在する中、ここには合唱団とバレエ団があるのみ。オペラ、バレエ、演劇の三部門にそれぞれ芸術監督が就任しており、これからのオペラ界を担う人材を育成するための研修機関が付属している。



●長いオペラ

全曲を上演すると四夜にわたる「ニーベルングの指環」が有名。序夜—ラインの黄金、第一夜—ワルキューレ、第二夜—ジークフリート、第三夜—神々の黄昏という構成で、上演時間はなんと15時間に及ぶ。

また現代音楽家シュトックハウゼンのオペラ作品「光—週間の7つの日」は28時間を要する。



●オペラ、オペレッタ、ミュージカル?

オペラは、全てのセリフが歌われる、つまり全体に音符がついている劇と定義されている。だからオペラの稽古では、台本では無く楽譜を使う。オペレッタは、セリフで芝居が進み、間に歌や踊りが入るもので、いわゆるミュージカルの元祖と言われる。敷居の高いオペラに比べて、風刺やパロディをふんだんに取り入れ、大衆に大いに受け入れられた。オペラブッフアやオペラ・コミックを経てオペレッタを生み、さらにアメリカに渡ってミュージカルへと形を変えた。

オペラでは歌手はマイクを使わないので、発声法について特別な訓練を受ける。そして劇場の隅々まで通る声で、難しい楽曲を高い技量を持って長時間歌い続ける。オペラ歌手には、アスリート並みの体力が要求される。

個人賛助会員のご案内

気軽に一流のクラシック音楽に触れる機会を、日本の隅々にまで提供することを目的に、当協会では1992年から2018年までの27年間で、北海道から沖縄県に至るまで47全都道府県125市区町村において340回のコンサートを開催して参りました。

全てのコンサートは、日本政府関係各府庁や開催各地方公共団体をはじめ、各種団体、民間企業のご支援等により、入場無料(一部低廉な入場料による公演を含む)として開催することができました。コンサー

トに参加された国民の皆様からは、「とても良いコンサートであった」と高い評価を頂いております。また、当協会は平成26年10月に公益社団法人の認定を受け、より活発な活動を目指しているところです。公益法人制度改革を経て、より一層の法人自立が求められている中、この素晴らしい事業の永遠の存続と更なる発展を期して、一人でも多くの国民の皆様方に、個人賛助会員へのご入会を通じて、当協会の活動をご支援頂きたくお願い申し上げます。

【個人賛助会員に関する詳しいお問合せはコチラ】⇒ <http://www.imea.or.jp/web/support>

クラシックって楽しいな! (オペラにまつわるエトセトラ)

制作: 公益社団法人国際音楽交流協会
東北福祉大学 / 株式会社大原の里
ダイキン工業株式会社 / 本願寺
影近設備工業株式会社
大阪ガス株式会社
井村屋グループ株式会社
助成: 一般財団法人日本宝くじ協会
協力: 株式会社コスモ・アーツアンドテクニクス
挿絵: 指宿京
発行: 2019年9月